

国立大学法人京都大学の中期目標 新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由
<p>【11】学生のキャリア教育を充実させ、学生の多様なキャリアパスに応じた進路支援機能を強化することにより、学生の進路に係る不安の解消を図るとともに、<u>多様な人材を社会の各方面に輩出する。</u></p> <p>2 研究に関する目標 本学が創立以来培ってきた自由の学風と、対話を根幹とした自学自習のもと、自主独立と創造の精神を涵養し、多元的な課題の解決に挑戦して、地球社会の調和ある共存に貢献すべく、基盤的研究を重視しつつ、先端的、独創的、学際的研究を推進する。<u>これにより</u>、世界を先導する国際的研究拠点機能を高めるほか、共同利用・共同研究拠点において、異分野融合・新分野創成に向けた取組等を推進する。</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標 【16】学問の源流を支える基盤的研究を重視するとともに、先端的、独創的、学際的研究を<u>推進して</u>、世界を先導する国際的研究拠点機能を高める。</p>	<p>【11】学生のキャリア教育を充実させ、<u>次代を担う大学教員・研究者や国際的に活躍できる多様な人材の社会の各方面への輩出を促進する。</u>また、学生の多様なキャリアパスに応じた進路支援機能を強化することにより、学生の進路に係る不安の解消を図る。</p> <p>2 研究に関する目標 本学が創立以来培ってきた自由の学風と、対話を根幹とした自学自習のもと、自主独立と創造の精神を涵養し、多元的な課題の解決に挑戦して、地球社会の調和ある共存に貢献すべく、基盤的研究を重視しつつ、先端的、独創的、学際的研究を推進する。<u>また</u>、世界を先導する国際的研究拠点機能を高めるほか、共同利用・共同研究拠点において、異分野融合・新分野創成に向けた取組等を推進する。</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標 【16】学問の源流を支える基盤的研究を重視するとともに、先端的、独創的、学際的研究を<u>推進する。</u>また、<u>世界を先導する国際的研究拠点機能を高める。</u></p>	<p>○大学教員・研究者や国際的に活躍できる人材を輩出することを目標に明示するため。</p> <p>○研究推進に関する目標と国際研究拠点機能強化等に関する目標の位置づけを整理するため。</p> <p>○研究推進に関する目標と国際研究拠点機能強化に関する目標の位置づけを整理するため。</p>

国立大学法人京都大学の中期目標 新旧対照表

現 行	変 更 案	変 更 理 由
<p>別表2（共同利用・共同研究拠点、教育関係共同 利用拠点）</p> <p style="text-align: right;">京都大学</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【共同利用・共同研究拠点】</p> <p>化学研究所</p> <p>人文科学研究所</p> <p>ウイルス・再生医科学研究所</p> <p>エネルギー理工学研究所</p> <p>生存圏研究所</p> <p>防災研究所</p> <p>基礎物理学研究所</p> <p>経済研究所</p> <p>数理解析研究所</p> <p><u>原子炉実験所</u></p> <p>霊長類研究所</p> <p>東南アジア地域研究研究所</p> <p>学術情報メディアセンター</p> <p><u>放射線生物研究センター</u></p> <p>生態学研究センター</p> <p>野生動物研究センター</p> </div>	<p>別表2（共同利用・共同研究拠点、教育関係共同 利用拠点）</p> <p style="text-align: right;">京都大学</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【共同利用・共同研究拠点】</p> <p><u>大学院生命科学研究科附属放射線生物研究セ ンター</u></p> <p>化学研究所</p> <p>人文科学研究所</p> <p>ウイルス・再生医科学研究所</p> <p>エネルギー理工学研究所</p> <p>生存圏研究所</p> <p>防災研究所</p> <p>基礎物理学研究所</p> <p>経済研究所</p> <p>数理解析研究所</p> <p><u>複合原子力科学研究所</u></p> <p>霊長類研究所</p> <p>東南アジア地域研究研究所</p> <p>学術情報メディアセンター</p> <p>生態学研究センター</p> <p>野生動物研究センター</p> </div>	<p>○大学院生命科学研究科と放射線生物研究セン ターが統合することに伴い、共同利用・共同研 究拠点として認定を受ける施設名称を変更する ため。</p> <p>○原子炉実験所が複合原子力科学研究所に名称 変更することに伴い、共同利用・共同研究拠点 として認定を受ける施設名称を変更するため。</p> <p>○大学院生命科学研究科と放射線生物研究セン ターが統合することに伴い、共同利用・共同研 究拠点として認定を受ける施設名称を変更する ため。</p>

国立大学法人京都大学の中期計画 新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由
<p>【4】理工系分野において、理工系人材育成戦略等を踏まえ、<u>第2期中期目標期間から導入している</u>博士課程教育リーディングプログラムの活用等により、俯瞰力・創造力等を育成する教育内容を充実させ、社会に貢献する実践的能力を身に付けた人材を育成する。人文社会系分野においても同様に、高い適応能力を身に付けた人材を育成する。</p>	<p>【4】理工系分野において、理工系人材育成戦略等を踏まえ、博士課程教育リーディングプログラムや<u>卓越大学院プログラム（仮称）</u>の活用等により、俯瞰力・創造力等を育成する教育内容を充実させ、社会に貢献する実践的能力を身に付けた人材を育成する。<u>また、国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センターにおいて、教養・共通教育から学部・大学院の専門教育までを通じた情報・統計・数理の全学的教育基盤を構築し、我が国を支えるトップレベルの人材を育成する。</u>人文社会系分野においても同様に、高い適応能力を身に付けた人材を育成する。</p>	<p>○卓越大学院プログラム（仮称）の導入を踏まえた活用に係る変更を行うため。 ○国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センターに係る取組を加えるため。</p>
<p>【5】<u>ティーチング・アシスタント（TA）及びリサーチ・アシスタント（RA）の制度を充実させ多角的・多様な運用を図るとともに、</u>各学部・研究科等の教育目的に応じた少人数授業、演習、実験・実習科目、国際化対応科目、国内外でのフィールド学習の充実並びにeラーニング、オープンコースウェア（OCW）、MOOCs等、インターネットを活用したデジタル教材を開発して能動的学習への活用等を行う。</p>	<p>【5】各学部・研究科等の教育目的に応じた少人数授業、演習、実験・実習科目、国際化対応科目、国内外でのフィールド学習の充実並びにeラーニング、オープンコースウェア（OCW）、MOOCs等、インターネットを活用したデジタル教材を開発して能動的学習への活用等を行う。</p>	<p>○TA及びRAの質向上や制度充実を目指す計画を別の計画として設定するため、削除するもの。</p>
<p>【6】～【7】（略）</p>	<p>【6】～【7】（略）</p>	
	<p>【80】<u>学部段階から優秀で志の高い留学生を積極的に受け入れ、日本人学生と共に学ばせる教育プログラム「Kyoto University International Undergraduate Program」（以下「Kyoto iUP」という。）</u>を推進し、社会が求める人材を育成する。</p>	<p>○Kyoto University International Undergraduate Programを推進する計画を新たに設定するため。</p>
<p>【8】（略）</p>	<p>【8】（略）</p>	

国立大学法人京都大学の中期計画 新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由
<p>【12】 (略)</p> <p>【13】～【16】 (略)</p>	<p>【12】 (略)</p> <p><u>【81】次代を担う教員候補者及び国際社会で活躍する人材の育成に向け、ティーチング・アシスタント (TA) 及びリサーチ・アシスタント (RA) 業務の質向上や制度充実を目的として、新たに「GST (Graduate Student Training) センター」 (仮称) を設置する。</u></p> <p>【13】～【16】 (略)</p>	<p>○T A及びR Aの質向上や制度充実を目指すG S Tセンター (仮称) を設置する計画を新たに設定するため。</p>
<p>【17】～【18】 (略)</p> <p>【19】大学の国際化に向けた学生海外派遣・留学生受入を推進する。具体的には、学生海外派遣については、国際インターンシップの推進や多様な海外留学プログラムの実施により、中長期及び短期の海外留学者数を1,600人 (通年) に増加させることを目指す。留学生受入れについては、<u>優秀な学生の確保</u>に努めるとともに、受入数を増加させ、外国人留学生数3,300人 (通年) を目指す。また、学生交流の基礎となる大学間学生交流協定の締結数を拡大し、150件を目指す。</p>	<p><u>【82】優秀で意欲のある留学生を確保するため、「留学生リクルーティングオフィス」 (仮称) を設置し、各国の教育事情等の調査分析を踏まえた戦略的な広報・誘致活動を行う。</u></p> <p>【17】～【18】 (略)</p> <p>【19】大学の国際化に向けた学生海外派遣・留学生受入を推進する。具体的には、学生海外派遣については、国際インターンシップの推進や多様な海外留学プログラムの実施により、中長期及び短期の海外留学者数を1,600人 (通年) に増加させることを目指す。留学生受入れについては、<u>Kyoto i UPの推進や短期受入プログラムの充実などにより、優秀で意欲のある学生の更なる確保・育成</u>に努めるとともに、受入数を増加させ、外国人留学生数3,300人 (通年) を目指す。<u>特に、世界各国の動向 (授業料設定を含む) を踏まえた留学生確保のあり方を検討し、その方向性について取りまとめる。</u>また、学生交流の基礎となる大学間学生交流協定の締結数を拡大し、150件を目指す。</p>	<p>○留学生リクルーティングオフィス (仮称) を設置する計画を新たに設定するため。</p> <p>○留学生の確保・育成をより一層推進する取組の具体化に伴う変更を行うため。</p>

国立大学法人京都大学の中期計画 新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由
<p>【20】 (略)</p> <p>【24】 若手研究者及び女性研究者の研究環境整備と育成支援の充実を行う。また、外国人研究者への研究支援及び受入体制の充実を行う。</p>	<p>【83】 <u>基盤的、先端的、独創的及び学際的研究を推進する。特に、再生医療分野と医学生物学分野、化学と生命科学との融合分野では、世界を先導する最先端研究を推進し、国際的に評価の高いジャーナル (Top5%) に掲載される大学全体の論文数を、第3期のいずれかの年において800篇を達成する。</u></p> <p><u>また、我が国の人文・社会科学研究の再構築に向け、一層の国際化を推進する。特に、京都の文化や日本の思想に強い関心を持つ世界中の学生や研究者との交流を促進するとともに、その支援を充実させる。</u></p> <p>【20】 (略)</p> <p>【24】 若手研究者及び女性研究者の研究環境整備と育成支援の充実を行う。また、<u>教員組織 (学系・全学教員部) 単位で、学術分野の特性等に応じた若手教員の雇用促進に関する計画を定める。これに加え、教員定員の若手教員への優先的再配置を進めるとともに、間接経費や外部資金を活用して若手教員ポストを確保する仕組みを整備するなどして、若手教員数の低下傾向に歯止めをかけ、増加を目指す取組を実施する。</u>更に、外国人研究者への研究支援及び受入体制の充実を行う。</p>	<p>○研究を推進し、かつ国際的に評価の高いジャーナル (Top5%) に掲載される大学全体の論文数の達成目標を800篇とする計画及び人文・社会科学研究の国際化を推進する計画を新たに設定するため。</p> <p>○若手研究者の増加を目指す取組の具体化に伴う変更を行うため。</p>

国立大学法人京都大学の中期計画 新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由
<p>【29】 (略)</p> <p>【30】 (略)</p> <p>【33】 独立行政法人国際協力機構（JICA）や国際連合教育科学文化機関（UNESCO）など国際機関等との連携及び国際協力により、国際貢献を図る。また、医療スタッフや医療技術による国際的な医療貢献を推進する。</p> <p>【36】 国際高等教育院附属国際学術言語教育センター（i-ARRC）の強化や、研究連携基盤内に創設する学際的研究組織（未踏科学研究ユニット）の体制整備等により、優れた外国人教員の雇用を組織的・戦略的に推進し、外国人教員増計画として外国人教員数を平成28年10月までに延べ282人に増加させ、それを維持する。</p>	<p>【29】 (略)</p> <p>【84】 <u>優秀な研究者・学生の獲得や人材育成、海外の産業界との連携等を戦略的に促進するため、海外大学等との双方向型研究交流をチーム単位で行う「On-site Laboratory」（現地運営型研究室）の制度を創設し、設置する。</u></p> <p>【30】 (略)</p> <p>【33】 独立行政法人国際協力機構（JICA）や国際連合教育科学文化機関（UNESCO）など国際機関等との連携及び国際協力により、<u>ASEAN地域をはじめとする様々な地域において国際貢献を図る。</u>また、医療スタッフや医療技術による国際的な医療貢献を推進する。</p> <p>【36】 国際高等教育院附属国際学術言語教育センター（i-ARRC）の強化、研究連携基盤内に置く学際的研究組織（未踏科学研究ユニット）の体制整備及び「On-site Laboratory」の設置等により、優れた外国人教員等の雇用を組織的・戦略的に推進し、<u>それらの数を延べ500人に増加させる。</u></p>	<p>○On-site Laboratoryを設置する計画を新たに設定するため。</p> <p>○国際貢献を図る地域についてASEAN地域を明示する変更を行うため。</p> <p>○外国人教員等の増加に係る目標値を上方修正するため。</p>

国立大学法人京都大学の中期計画 新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由
<p>【49】 (略)</p>	<p>【49】 (略)</p> <p><u>【85】 世界最高水準の独創的な研究開発の成果等を社会的価値の創出へとつなげるため、新たに事業会社を設立し、コンサルティング・シンクタンク事業など研究成果・知的財産を活用した取組を展開する。</u></p>	<p>○事業会社を設立し、研究成果・知的財産を活用した取組を実施する計画を新たに設定するため。</p>
<p>【50】 (略)</p>	<p>【50】 (略)</p>	
<p>【52】 総長が迅速な意思決定を行えるよう、機動的なガバナンスの構築を目指し、IR機能の強化など継続的に体制を見直すとともに、本学の理念及び特色を反映した戦略を策定する。</p>	<p>【52】 総長が迅速な意思決定を行えるよう、機動的なガバナンスの構築を目指し、IR機能の強化など継続的に体制を見直すとともに、本学の理念及び特色を反映した戦略を策定する。<u>また、執行部と部局との連携調整の下に戦略立案を担当する理事（京都大学版プロボスト）及び調整機能の場として戦略調整会議を設置する。</u></p>	<p>○京都大学版プロボスト及び戦略調整会議の設置に伴う変更を行うため。</p>
<p>【57】 大学全体の更なる機能強化を図るため、世界のリーディング大学として教育・研究・医療等の質を高めることができるよう、総長のリーダーシップのもとで、全学的な視点から<u>人員</u>を再配置するとともに、運営費交付金等の戦略的な経費配分を行う。</p>	<p>【57】 大学全体の更なる機能強化を図るため、世界のリーディング大学として教育・研究・医療等の質を高めることができるよう、総長のリーダーシップのもとで、全学的な視点から<u>外国人教員及び若手教員等の積極的な雇用促進並びに事務組織の機能強化を図るための定員</u>を再配置するとともに、運営費交付金等の戦略的な経費配分を行う。</p>	<p>○外国人教員や若手教員の雇用を促進する取組に伴う変更を行うため。</p>

国立大学法人京都大学の中期計画 新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由								
<p>【62】外部資金等を効果的に獲得するため、自己収入源の多角化を検討するとともに、積極的な情報収集・共有並びに研究費等の申請などの支援機能を強化する。また、中長期的な視点での寄附募集活動を推進するための指針として策定した「京都大学基金戦略」に基づき、<u>京都大学基金の寄附募集活動を推進する</u>。</p> <p>(中略)</p> <p>別表 (収容定員)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">学部</td> <td>医学部 <u>1, 076人</u> (うち医師養成に係る分野<u>642人</u>)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">大学院</td> <td>医学研究科 1,012人 うち修士課程 138人 博士課程 <u>(医学)</u> 680人 博士後期課程 (社会健康医学・<u>医学</u>・人間健康科学) 126人 専門職学位課程 (社会健康医学) 68人</td> </tr> </table>	学部	医学部 <u>1, 076人</u> (うち医師養成に係る分野 <u>642人</u>)	大学院	医学研究科 1,012人 うち修士課程 138人 博士課程 <u>(医学)</u> 680人 博士後期課程 (社会健康医学・ <u>医学</u> ・人間健康科学) 126人 専門職学位課程 (社会健康医学) 68人	<p>【62】外部資金等を効果的に獲得するため、自己収入源の多角化を検討するとともに、積極的な情報収集・共有並びに研究費等の申請などの支援機能を強化する。また、中長期的な視点での寄附募集活動を推進するための指針として策定した「京都大学基金戦略」に基づき、<u>寄附募集活動を推進するため、ファンドレイザーの増員による基金室の組織強化など全学的な寄附募集の体制整備を行う</u>。</p> <p>別表 (収容定員)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">学部</td> <td>医学部 <u>1, 123人</u> (うち医師養成に係る分野<u>638人</u>)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">大学院</td> <td>医学研究科 1,012人 うち修士課程 138人 博士課程 <u>(医学、京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携)</u> 680人 博士後期課程 (社会健康医学、<u>医学</u>・人間健康科学) 126人 専門職学位課程 (社会健康医学) 68人</td> </tr> </table>	学部	医学部 <u>1, 123人</u> (うち医師養成に係る分野 <u>638人</u>)	大学院	医学研究科 1,012人 うち修士課程 138人 博士課程 <u>(医学、京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携)</u> 680人 博士後期課程 (社会健康医学、 <u>医学</u> ・人間健康科学) 126人 専門職学位課程 (社会健康医学) 68人	<p>○全学的な寄附募集体制を整備する取組の具体化に伴う変更を行うため。</p> <p>○医学部医学科の入学定員暫定増の措置期限 (平成31年度まで) 及び同人間健康科学科の整備に伴う学生定員の変更のため。</p> <p>○医学研究科博士課程における専攻設置に伴う表記の整備のため。</p>
学部	医学部 <u>1, 076人</u> (うち医師養成に係る分野 <u>642人</u>)									
大学院	医学研究科 1,012人 うち修士課程 138人 博士課程 <u>(医学)</u> 680人 博士後期課程 (社会健康医学・ <u>医学</u> ・人間健康科学) 126人 専門職学位課程 (社会健康医学) 68人									
学部	医学部 <u>1, 123人</u> (うち医師養成に係る分野 <u>638人</u>)									
大学院	医学研究科 1,012人 うち修士課程 138人 博士課程 <u>(医学、京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携)</u> 680人 博士後期課程 (社会健康医学、 <u>医学</u> ・人間健康科学) 126人 専門職学位課程 (社会健康医学) 68人									